



こんにちは

村田 けい子です



みなさんのご意見・ご要望をお寄せ下さい。ホームページがあります。
フェイスブックやっています。 移動事務所 090-9144-8534
発行/日本共産党立科町議会議員 村田桂子 立科町塩沢1483 ☎0267(56)2868

'25.2.7
No.483

いのち縮める高額療養費制度の見直し

所得区分	現在の上限額 ／月・世帯	2025年8月～	所得区分	2027年8月～
住民税非課税	15,000～ 35,400	15,400～ 36,300		15,400 ～36,300円
～約370万円	～57,600	～60,600		
			約510万円 約650万円	約88,000円 約113,000円
～約770万円	約8万円	約88,000	→	約139,000円
～約1160万円	約167,000	約188,000 約29万円		
			約1650万円	約444,000円

軍事栄えて
福祉・暮らしカットの石破予算

信濃毎日新聞2月3日付で、高額療養費制度の見直しについての全国がん患者団体連合会のアンケートを公表。1/17～19に掛けてオンラインで行った3623人の声が紹介されていました。

『がん患者「治療諦めるかも・・・」の見出しが痛切でした。「命を縮める患者が増える」
「休職し今の上限額でもかなりきつい。引き上げで治療を断念する可能性もある」

「現状で手一杯。これ以上苦しめないで」とアンケートに寄せられた声が紹介されています。

軍事費に来年度8.7兆円という途方もない予算を割きながら、国民の命を脅かす高額療養費制度の改悪。国会論戦でも国民負担の痛切さを紹介し、改悪をストップせよと迫っていますが、「少数与党」の今こそ、この改悪案を野党が団結してストップをかけるべきです。

今季最大の寒波が！ 残念ながら・・・

灯油券
を待っています



町民の方何人からも「灯油券はいつごろ来ますか」と問い合わせがあります。残念ながら、臨時議会での補正予算はなく、

立科町独自の「あったか灯油券」は発行されません。1月17日に県議会で成立した補正予算は、「非課税世帯の方に5千円」ですが、申請が必要です。またお知らせします。



よくわかる 番号表示

清瀬市役所の窓口では番号表示がされていました。高齢になり、呼び出しの音が聞こえないことも起こります。そんな時に番号が表示されると自

分の番だとわかります。名前を呼ばれるのも、個人情報保護の立場から好ましくないこともあります。総合病院の窓口や高速道路の飲食店でも一般的になっています。高齢化の進む当町でも、取り入れる時が来ているのではないのでしょうか。



今週のパチリ！

2/5・6 姉妹都市議会との意見交換会

4年ぶりに行われた姉妹都市の愛川町・清瀬市議会との交流会。2/5（水）は愛川町議会との実地研修会で、愛川町の発展ぶりがよくわかりました。今回は愛川町をご紹介します。

「春日台センターセンター」という名の施設は、「旧春日台センター」という名のスーパーの跡地を利用して、再び町の住民の「集まるセンター」にしようとの思いから設置された施設で、高齢者・障がい者・住民・子ども達など誰でも立ち寄れる場所となっていました。認知症・デイサービス・障がい者の作業所、学習支援などを社会福祉法人「愛川舜寿会」が仲立ちとなって運営し、公的な補助とコロケ・駄菓子屋・コインランドリー・貸室業務などの利益を生み出す経営とを組み合わせ運営している。子どもたちとお年寄りが一緒に過ごす空間となっており、市民が通り抜けられる構造のため、集まってお茶をしたりやコインランドリーで洗濯する市民も多く、絶えず人が行き交うにぎやかな空間でした。



2階
談話室

女性が一人で黙々と編み物をしていました。自分の時間を楽し

んでいるようです。無料で利用でき、ここで打ち合わせや会議などもできるとの事で利用が多いそうです。電子レンジやIHレンジもあり料理教室やお昼もここでとれるそうです。

左側には小部屋が3部屋あり、テレワークをする会社や、アクセサリを創る女性の作業所として月単位で貸し出しています。収益を生んでおり運営に役立っています。

また、同じ階に寺小屋という名の学習支援室もあります。退職した先生たちがグループを作り、安価で子どもたちの学習支援をしているそうです。

つまり、障がい者・高齢者・子どもたちなどジャンル分けをせずに、壁をなくして自然に交流できる拠点となっていました。



一つ40円、50円の駄菓子

以前のスーパーで人気だった一つ100円のコロケの前に子どもたちの行列ができていました。

1階フロアは、グループホームや認知症対応のデイサービスや学校帰りの子どもたちの居場所となっており、児童書や絵本・ピアノもあります。その一角に駄菓子があり、そのお世話を高齢の男性が嬉しそうに子どもたちとお話していました。



町の人たちが通り抜けできるため、洗濯に・おしゃべりにと立ち寄る人がひっきりなしです。

一般向けのコインランドリーの並んだ空間の裏には、障がい者の作業所としての洗濯業務があり、美容院や理髪店のかさば

るお洗濯などの委託を受けて4、5人の障害を持った方が働いていました。

また障がい児の放課後保育の受け皿にもなっています。施設や機能の壁をなくして、通路一つで様々な機能が果たせるようになっており、実に生き活きと楽しそうでした。



ストリート
バスケットの
コート
2面

工業団地の中の公園の雑木を切ってバスケットコートに、フェンスを設けてゴールの高さの違う小学生向け、一般向けの2面のコートを作った。大勢の子どもたちが自転車で駆けつけ、体を動かしていた。3ポイントシュートの練習や3 on 3の試合もできる。愛川町だけでなく隣の厚木市からもやってきます。愛川町では市民のスポーツを奨励している姿勢を感じました。